



## The Voyage of Discovery. Hal Stutz

"The real voyage of discovery consists not in seeking new landscapes, but in having new eyes." -Marcel Proust

What does it mean to have new eyes? Many foreigners come to Japan with high expectations, but they don't really know what they are looking for. I think this is true for many young people who decide to move to a different country.

But what of the people who have already lived and experienced and, in some cases, found? Their journey is far from over! Having new eyes means trying to understand the experiences of others. It means challenging your own perceptions of proper and improper, of right and wrong. It means questioning what you have always been taught and told, and what you have taught and told others. It means removing the lens of one's own bias and admitting, "I know nothing."

The journey only ends when you close your mind to learning. Learn something new every day; touch someone else's consciousness; admit how little you know. It expands your horizons to an edge of the earth you've yet to see.

### 【ちょっと豆知識】宮地晶子

石けんの香りで一気に母を思い出す、ということありますか。フランス人作家、ブルースト(1871年~1922年)の代表作は、「失われた時を求めて」。この中で主人公が「マドレーヌを紅茶に浸した香りで封印された記憶がよみがえる」という場面があります。そこから、こういう現象をブルースト効果と言います。

## 発見の旅 ハル・ストウツ

「真の発見の旅とは、新しい風景を探すことではなく、新しい視点を持つことにある。」マルセル・ブルースト

新しい視点を持つとは、どういうことでしょうか。大きな期待を持って日本に来る外国人はたくさんいます。でも実は自分が何を求めているかは分かっていない。外国に移住を決める若者の多くにも同じことが当てはまります。

では実際に外国への移住を経験した人々は、何かを見つけたのでしょうか。彼らの旅は終わりにはほど遠い。新しい視点を持つということは、他者の経験を理解しようとする事。つまり自分の持つ適切、不適切、善悪の認識を自分に問うてみる事。それまで教わってきたことや、他者に教えてきたことに疑問を持つこと。自分の先入観に曇ったレンズを捨てて自分が「何も知らない」と認めること。

学ぶことに心を閉ざした時、旅は終わります。毎日何か新しいことを学びましょう。誰かの意識に触れましょう。自分がいかに物を知らないか認めましょう。そうすれば、あなたがまだ見ぬ地球の果てまで視野が広がることでしょう。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

## エイゴノマナビカタ

第125回

## スカットと一曲!

「きのこのこのこ元気な子、エリンギマイタケぶなしめじ」。よく耳にする歌は、歌詞を見ただけで歌えますね。先日テストの採点をしたときのこと。生徒にはいつも解答用紙の余白に「暗記したことや自由英作をしてみよう」と言っています。受験対策です。

ある日、生徒の解答用紙を見たら、なんと「As I, turn up the collar on my favorite winter coat. This wind is blowing my mind.」こんな文がびっしりと書いてあったのです。気がつくと、私は歌っていました。マイケル・ジャクソンの曲だったから。驚きましたね。あ

とで聞いたら、インターネットのYou(ユー)-tube(チューブ)で見つけて好きになったとか。それで歌詞を全部書いてしまうなんてすごいですよね。

私が英語の世界にぐっと傾いたのも、中学生のときに出会ったビートルズ。洋楽はいつの時代も格好良い。今は中学生にはOne(ワン) Direction(ダイレクション)やTaylor(テイラー) Swift(スウィフト)が人気。私はというと、今はBon(ボン) jovi(ジョビ)に夢中です。娘には「お母さん、今ごろロック?」とあきれられています。でも晩ご飯作りながら、がんがん歌うとスカットします。

「It's my life. It's now or never. I ain't gonna live forever. I just want to live while I'm alive. (自分の人生、今やらなきゃいつやる。永遠に生きられるわけじゃなし)」。

シビレルー! さんざん耳慣れたあとだと、曲がかかっても、歌詞を見たらすぐ歌えるようになります。そういうものなんです。お試しあれ。すぐそらで歌えるようにもなりますよ。レパートリーが増えると、加速度的にリスニング力がつき、発音が良くなり、表現力がつきます。